

**2025年度（総合型選抜）AO選抜入学試験  
情報理工学部「UNITE Program方式」**

---

## 1. 実施状況

### （1）志願者数、合格者数等

学科	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
情報理工学科（ISSEコース以外）	57	25	21

### （2）本入学試験の目的

次のような者を積極的に評価し、受け入れることを目的としました。

- ・「情報学」と「情報技術（ICT）」に関心・興味を持っている者
- ・ICTをつかって、身近な問題や社会の課題を解決したいと考えている者
- ・論理的・数理的に思考する力、コミュニケーションへの意欲、そして熱意をもっている者

また、出願要件としている UNITE Program では、学部のアドミッション・ポリシーに即し、AI 学習システムにて学習することを通して、情報理工学部のカリキュラム上、必要とされる素養を入学希望者が身につけられるように単元を指定しました。

## 2. 試験内容

### （1）第1次選考

出願書類（調査書、課題論文、英語外部資格試験の証明書）を総合的に評価し、第1次選考の可否を決定しました。また、課題論文は、情報技術が10年後、20 年後にどのようなになっているかを調査し、それを踏まえて、その技術についてどのように研究・開発していきたいかを、1,200字以内で述べる内容としました。

### （2）第2次選考

試験日当日に提示したテーマに関して、手書きでプレゼンテーション用資料を作成し、作成した資料を用いたプレゼンテーションを実施しました。また、プレゼンテーションをもとにした質疑応答と出願書類の内容を踏まえた個人面接を実施しました。

## 3. 出題の意図

### （1）第1次選考

課題論文により、情報技術に対する関心と各種資料に基づく技術動向の調査能力、それらエビデンスを踏まえた課題解決方法の提案を論理的に説明できるか、という点を審査しました。また、今後情報技術者として必須の能力である英語力も併せて評価しました。

### （2）第2次選考

#### 1)プレゼンテーション

日常生活と情報技術を題材とした課題を与え、問題発見の能力を備えているか、またその解決方法についての論理的な説明ができるかどうかを問いました。インターネットが使えない環境において、自分自身で持ち合わせている知識のみで考えることになります。常日頃から関心をもっているか、知識の習得を行なっているかを評価しました。

#### 2)個人面接

志望動機などを確認するとともに、課題論文の内容についても、主体的に取り組んだかを確認するための質問を行いました。

#### 4. 評価のポイント

##### (1) 第1次選考

課題論文の評価は、情報技術に関する関心、学びに対する具体性、それらを論理的に記述できているか、などの観点について評価しました。

また、英語外部資格試験についてもCEFRのランク付を参考にして一定以上の成績に対しては加点評価を行いました。第1次選考の最終的な評価は、これらを総合的に評価し、可否を決定しました。

##### (2) 第2次選考

###### 1) プレゼンテーション

プレゼンテーションで与えられた題材に対し、課題設定の適切さ、情報技術の関連度、論理性、質疑に対する回答などの観点について評価しました。

###### 2) 個人面接

志望動機や課題論文の内容について質問し、動機の強さや具体性、論文の理解度を確認しました。

#### 5. 解答状況

##### (1) 第1次選考

半数の志願者について、上記評価ポイントが不十分であると判断しました。英語外部資格試験の評価が高い受験生は課題論文の評価が高い傾向がありました。

##### (2) 第2次選考

###### 1) プレゼンテーション

資料の作成と作成資料を用いたプレゼンテーションで評価しましたが、資料の完成度が高い受験生はプレゼンテーションの評価が高い印象でした。ほとんどの受験生は高得点を得ましたが、そうでない一部の受験生との間には大きなギャップがありました。

###### 2) 個人面接

ほとんどの受験生から、本学への入学について強い動機、意欲を確認できました。課題論文に関わる質疑応答はほとんどの受験生がしっかりと返答できていましたが、試験日当日テーマが分かるプレゼンテーションに関わる質疑応答においては、うまく返答できる受験生とうまく返答できない受験生との間に差がでました。

#### 6. 次年度の受験生へのアドバイス

本入試では、情報技術に対する関心の高さや動機の強さを課題論文やプレゼンテーションを通して確認します。日頃から情報技術に関する動向への関心や自らの取り組みの積み重ねによって培われる知識を問うことになります。また、そのようにして得られたもの、それらに基づいて考えたことを論理的に伝えることができる技術も必要となりますので、日頃からそうした技術を身につけておく必要があります。

以上